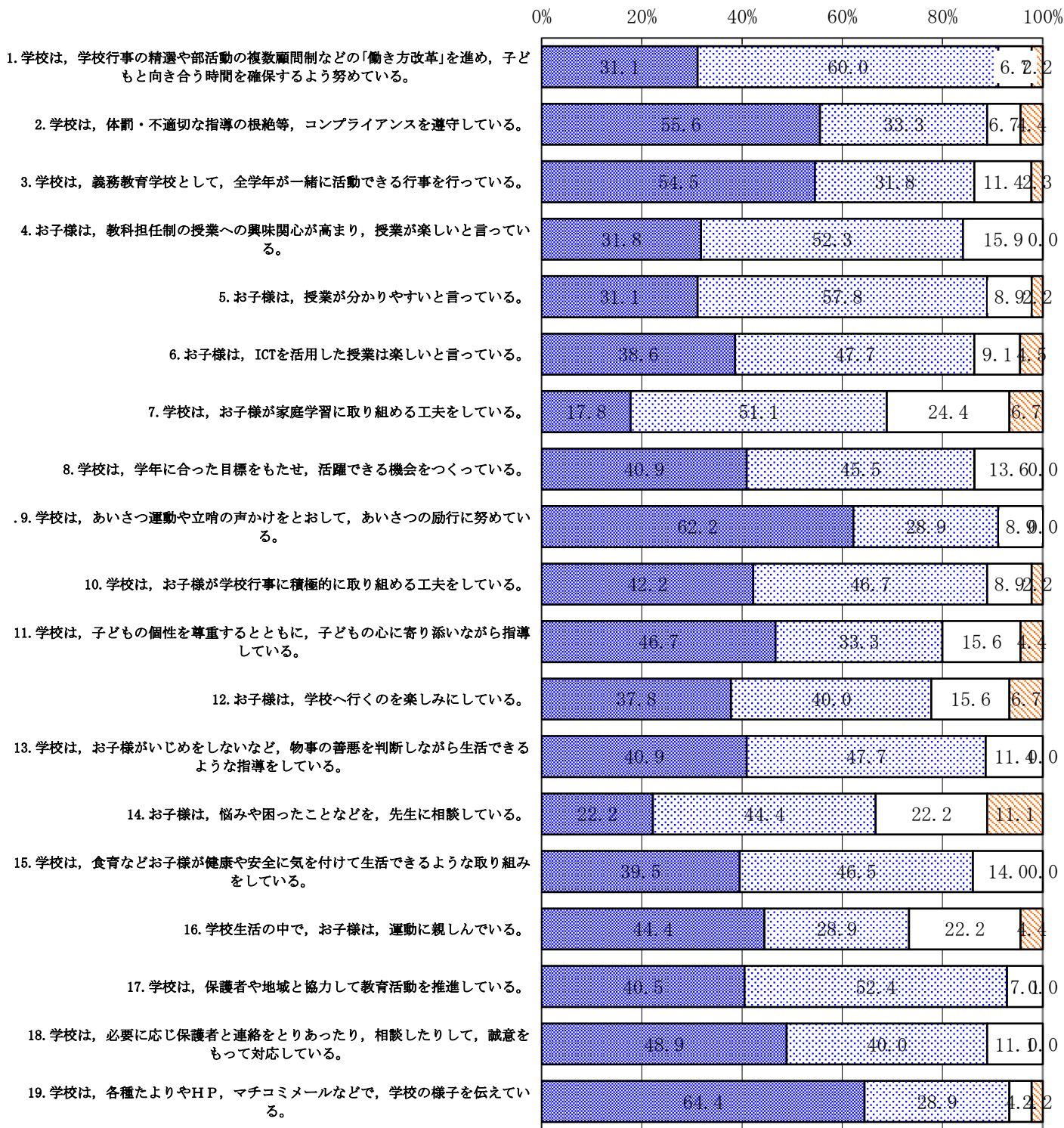


令和4年度 7月 学校改善アンケート(保護者) 後期課程

当てはまる
 だいたい当てはまる
 あまり当てはまらない
 当てはまらない

全体



○「あいさつの励行」(項目9)と「学校からの情報発信」(項目19)について評価が高い。(「当てはまる」の割合が60%以上)特にあいさつに関しては、縦割り班でのあいさつ運動や登下校時、児童クラブへの迎えの時の先生方の声かけなどが浸透しているからである。

○「地域とともにある学校づくり」(項目17~19)について、「当てはまる」、「大体当てはまる」の肯定意見の割合は80%後半から90%台となり、保護者からの理解を得ている。自由記述にもあったが、「小さい変化に気付く」、「個別の対応」など保護者との連絡を密にし、学校での様子を伝えている現れであると思われる。

▲「家庭学習への取組の工夫」(項目7)や「悩み等の先生への相談」(項目14)についての肯定意見の割合は60%台であり、この中では評価が低い。「家庭学習」についての要因は、生徒のタブレットやスマホでの動画視聴やゲーム等の時間が増え、家庭で学習に打ち込む様子が薄れていること、教職員側も含めた「手引き」の効果的な活用がされていないことが考えられる。手引きに関しては、教科授業や学活等で触れる機会を設けていきたい。また、「先生への相談」においては、どの学年も定期的に二者面談を行い、丁寧に対応している。この結果に怯まず、今後も生徒に寄り添った、丁寧な対応に努めていきたい。

(自由記述から)

- ・不登校生徒の保護者からの願い
- ・マチコミの連絡
- ・多様性の尊重、自主性を伸ばす
- ・体操服登校(夏)
- ・図書室の利用
- ・学校行事の内容、義務教育学校としての行事のもち方 など